

発刊に当たって

教育とは、学習はもちろんのこと、学校生活における集団行動の中で、積極性や協調性など、大人になるために必要な人間性を磨いていくものだと思います。

旭川市においては、「地域の宝」である子どもたちを地域全体で育て、世界で活躍できる人材を輩出できるまちであることが、第8次旭川市総合計画の目指す都市像である「世界できらめくいきいき旭川」につながっていくことと考えます。

学習については、興味を持たせることに注力していただくことが重要だと思います。興味があれば、学習やスポーツ、そして、遊びでさえも楽しくありません。特に、家庭学習については、各学校では試行錯誤しながら様々な取組を行っておりますし、各家庭では子どもを机に向かわせる努力をしておりますが、子ども自身が学習に対する興味がなければ、机に向かい家庭学習をしたとしても身に付くとは思えません。だからこそ、学習に対する興味を持たせる取組等を、学校任せにせず、地域全体で考えていく必要があると考えます。

また、小学校外国語教育の早期化・教科化に伴い、来年度から、旭川市では小学校3年生から外国語に触れることとなり、これまで以上に、コミュニケーション能力の育成が求められることとなります。そのため、授業においては、グループディスカッションを多く取り入れるなどし、考える力、人の話を聞く力、自分の考えを表現する力など、社会で必要となる力を育成する機会を多く持つことが、社会に出て活躍するための一助になると考えます。

本指針に基づき育まれる子どもたちの「生きる力」が、郷土愛や地域の歴史を学ぶことにより、発信力を生み、やがては、子どもたちが地域に帰ってくるという循環を生み出すことにつながることを心から御期待申し上げます。

平成29年11月

旭川市PTA連合会

会長 本間 公 浩

教師や保護者はもちろん、地域の方々など、子どもたちが小さいうちに関わることでできる大人が、見本を示し、教え導く、そのような「人創り」が、今、求められていると考えています。

私たちも社会人として、働く姿勢を子どもたちに見せることはもちろんのこと、新卒者や若い人々にも、引き続き、社会の仕組みや制度等を教えていかなくてはいけないと実感しています。

また、最近、就労意欲が以前に比べ乏しくなっていると感じています。そのようなことから、キャリア教育に関しては、小さい頃からの学習が非常に大切であると考えています。「体験する！」ということが、人生において大きな刺激になりますので、そういった意味では、職場体験などの取組は大変素晴らしい学習と考えます。

子どもたちを受け入れる会社や企業側にとりましても、大切なお子様を社会人として「預かる・教育する」という部分では変わらないので、気持ちを新たに社業の発展に努め、より多くの雇用に結び付くよう地域社会に貢献してまいりたいと思いますし、子どもたちが、地元から離れない、帰ってくる旭川になるよう努力してまいります。

学校におきましては、今後も、授業を通じ、旭川市の教育方針や本指針等の内容について全児童生徒に伝えていただきたいと思います。

先生方におかれましては、将来を担う大事な、そして、貴重な子どもたちに直々に接することができる羨ましいお立場にあります。教職を目指された頃の志をいつまでも大切にされ、旭川の子どものための教育に御尽力いただくことを期待しております。

平成29年11月

旭川商工会議所女性会

会長 勝 山 孝 恵

小・中学校の新しい教育課程の作成に当たり、学校関係者に加え、保護者の代表者、企業関係代表者、学識経験者、地域住民組織の代表者を含めた懇談会を設置し、作成方針の説明や作成した指針案について広く意見や考えを求めたことは高く評価します。

本指針については、本編はもとより、巻末の資料についても充実しています。例えば、「あさひかわラーニングマップ」については、９年間の義務教育で「何を学ぶか」を理解できるものとなっており、児童生徒にとっては、明確な目標を与え、日々の学習の励みになりますし、保護者や地域の方々にとっては、学校の教育活動に協力、参画する手助けになると思います。

また、「旭川市小中連携・一貫教育推進プラン」については、これからの義務教育において、９年間を見通した教育活動を進めていくことが、いかに重要であるかを保護者や地域社会に幅広く理解してもらうことにつながります。

学校における教育活動について、どのように地域社会と連携や協働しながら進めていくかといった視点でいえば、学校だけではなく、地域社会側の姿勢も非常に大切ではないかと考えます。具体的には、地域それぞれ、事情も異なりますので難しいかもしれませんが、「通学合宿」や「子どもの居場所」などの取組が全市的なものになればと願っています。

今後、「今日の子どもたちが、明日の社会を支えてくれる」という思いが、地域に広く浸透し、学校と地域が一体となって、子どもたちのよりよい育成につながることを期待します。

平成２９年１１月

春光台地区市民委員会

顧問 竹内 訓

「旭川市立小・中学校教育課程編成の指針『総則編』」の発刊に当たり、極めて限られた時間の中で執筆・編集に当たられた関係各位の御尽力に感謝と敬意を表します。道内における魁となる本取組は、各学校で教育課程を編んでいく営みに確かな指針を示されたものと存じます。

学習指導要領改訂に先立つ中央教育審議会答申では、「生きる力」の理念の具現化に向けた学習指導要領等の枠組み改善と「社会に開かれた教育課程」の重要性が謳われました。このことは、学校がこれまで以上に、家庭や地域社会と目標を共有し連携して教育活動に取り組むことや、成長した子どもの姿で教育の成果を示し、信頼関係を一層深めることが求められているのだと考えます。本学としても、次代を担う人財育成に当たる教員養成に与えられた責務の重さを実感し、今後も本市教育充実の一助として学生ボランティア派遣事業の一層の啓発に努めて参ります。

師範学校時代から伝わる本学玄関ロビー掲示の書「教学半」の教えは、本来の意味にとどまることなく、読み手の立場や状況に応じて幾つもの解釈を許します。「社会に開かれた教育課程」実践者の養成にその教えは旨としていますが、教育課程の編成・実施にも示唆を与える深く大きな言葉であるのではないかと感じております。

本指針が、各学校のカリキュラム・マネジメントの一助となり、学校が安全で楽しく、子どもたちの笑顔あふれる毎日となりますよう心よりお祈り申し上げます。

平成２９年１１月

北海道教育大学旭川校

学校臨床教授 佐藤 聖 士